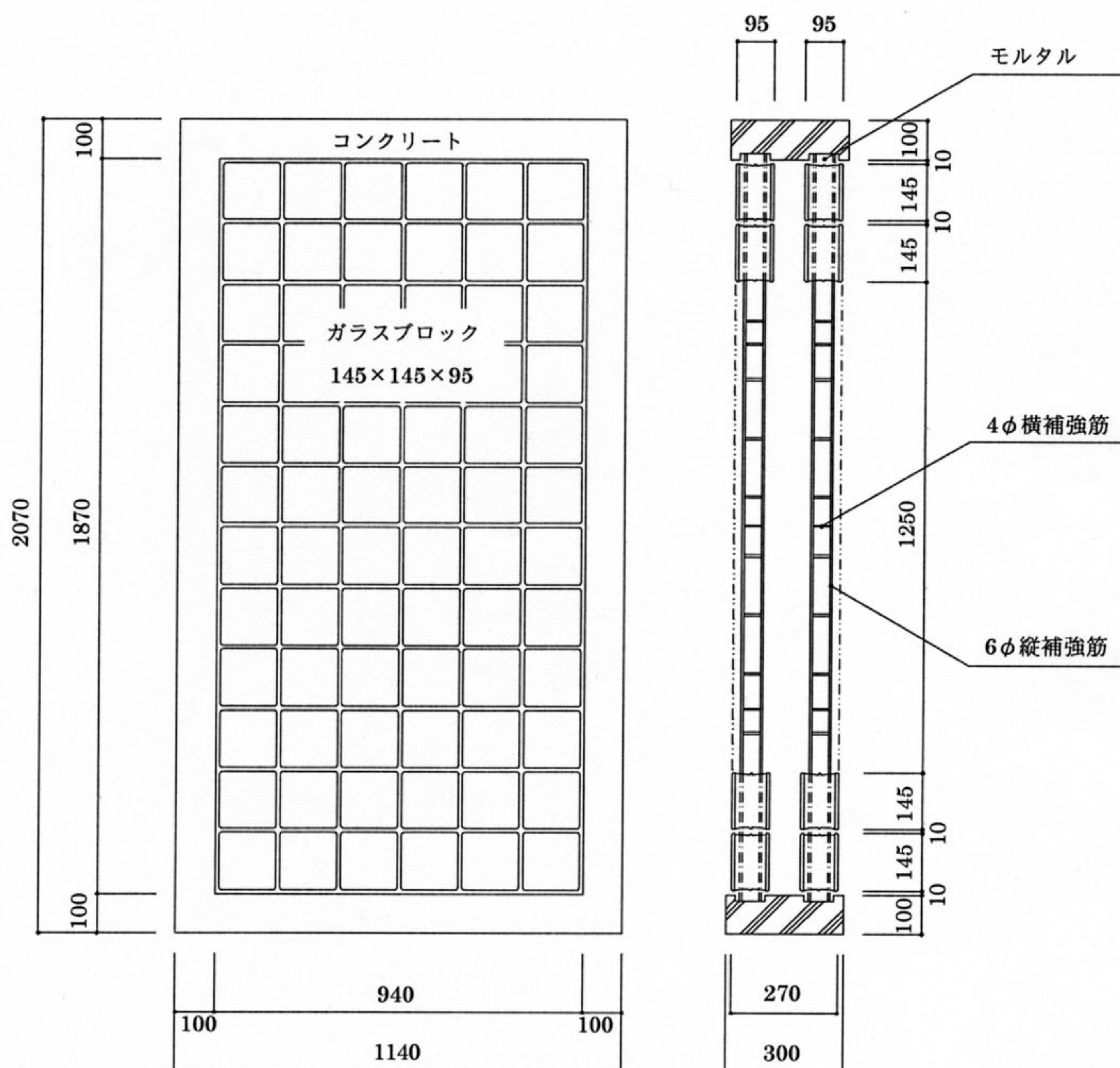


(別添)

認定番号	FP060NE-9022	認定年月日：平成14年5月31日
品目名	ガラスブロック/外壁	申請者名：日本電気硝子㈱ 滋賀県大津市晴嵐2-7-1

1. 構造名：非耐力壁 耐火性能：1時間耐火

2. 構造の形状・寸法 (単位 mm)



3. 施工に必要な材料

施工に必要な材料は目地用のセメントと砂、補強用の力骨および仕上用の白セメントと石粉ならびに防水剤とする。
また必要に応じてコーキング材を使用することができる。

4. パネルの最大寸法

パネルの大きさはその耐風圧強度から次の表に示す値を超えないようにするものとする。

地表面からの高さ (m)	ガラスブロック壁の最大寸法 (m×m)	
	正方形のとき	長辺が短辺の2倍のとき
0～8	7.2×7.2	8.6×4.3
8～15	5.45×5.45	6.76×3.38
15～30	4.6×4.6	5.66×2.83

5. 施工方法

5.1 目地割

設計図に示された目地割に従ってサッシ、コンクリート枠、木枠等にガラスブロックの位置、目地の位置、出入線等を墨出しした後施工にかかるものとする。目地巾は 10mm を標準とする。

5.2 モルタルの作り方

砂、セメントおよび水の混合比は次の表に示す割合になるようにするものとする。この混合比で作られたモルタルは手で握ってもべとつかずやや湿っているという程度のものであること。

砂	3	川砂で細かいもの程よい
セメント	1	普通セメント
水	35%	少しずつ加える

(注) 水の量はセメント量に対する比率

モルタル作りの手順は

- (イ) 練り箱又は鉄板の上に砂、セメントを入れる
- (ロ) 煉瓦ゴテ (スコップ) でよくかきまぜる
- (ハ) 水を少しずつ加え前記の硬さに練る

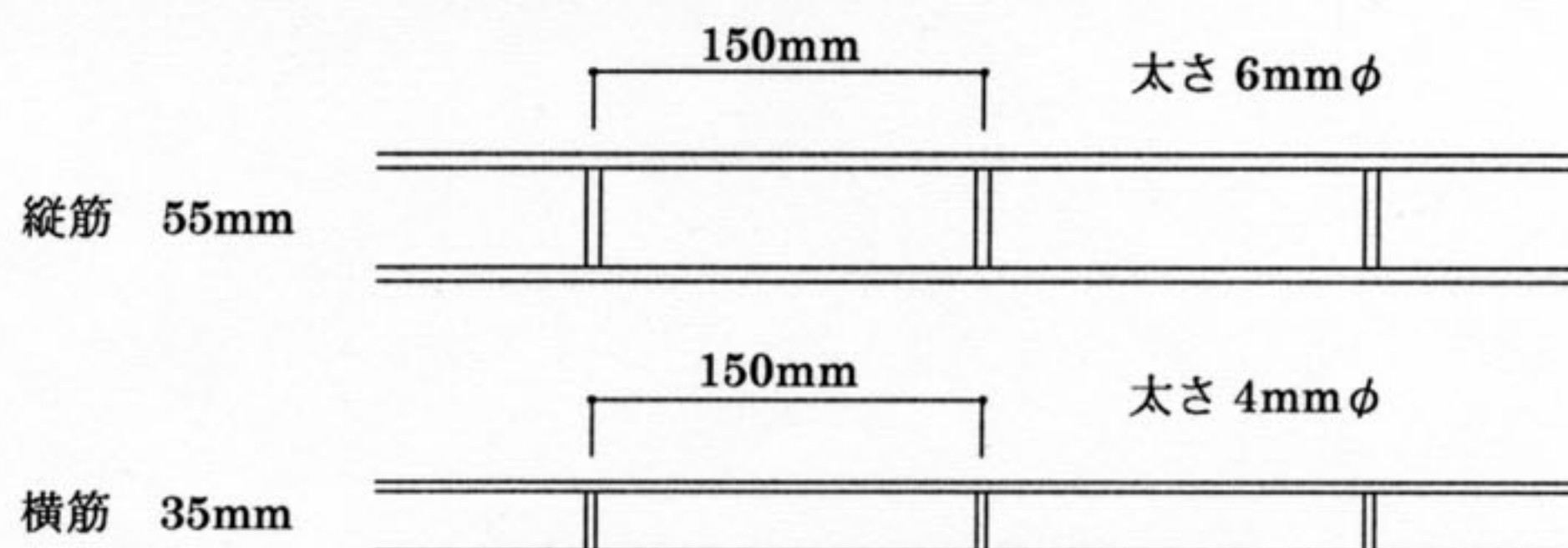
ものとする。

5.3 補強金物

パネルの大きさが 4. パネルの最大寸法 を超える場合には補強金物を用いるものとする。補強金物の寸法、形状、位置等は設計図に明示するものとする。

5.4 力骨 (リブ・筋)

力骨は次の図に示す標準の縦筋および横筋を使用するものとする。



(イ) 力骨の積み込み位置

補強力骨を積み込む位置は縦筋、横筋共ブロックの寸法に関係なく 600mm 前後毎に積み込むものとする。

(ロ) 力骨固定は支持構造に熔接または孔を掘って固定する等構造上支障のないものとする。

5.5 積み方

ガラスブロックの 1 段目は上段の積み作業の基準となるものであり特に目地割に従って水平、垂直に十分注意してすえつけなければならない。

垂直を合わす縦系、水平を合わす横系、ガラス表面を揃える出入系は必ず用いるべきである。またブロック積み中は既に積み終ったブロックに振動や衝撃が加わらないようによく注意しなければならない。

5.6 防水

建物の外壁で雨水の浸水のおそれのある場合には目地が乾燥後防水液を目地や目地囲りに塗布して防水を行うものとする。防水液が乾いたらガラス面に付着した部分を布できれいにふきとること。

防水液はまず防水剤を水によく溶かし、その中へ重量で防水剤の 5 倍のセメント粉を入れて塗布しやすいドロドロの状態にするものとする。水の量は防水剤の種類によって異なるので注意すること。

5.7 化粧目地仕上げ

化粧目地には一般に白地セメントを使うが、汚れが目立たないようにするため普通セメントを使うこともできる。

(イ) 化粧モルタルの混合比

化粧モルタルの混合比は次の表によるものとする。

白色セメント	1	又は普通セメント
石粉又は寒水粉	1	目地のひび割れ防止のため
水	50%	水は少しずつ入れて練る

(注) 水の量はセメント量に対する比率

(ロ) 化粧モルタルの作り方

セメントと石粉を十分かき混ぜてむらのないようにし水を入れてよく練ること。硬さは細工に使う粘土よりやや軟かい程度であること。

5.8 ツインパネルの積み方

ツインパネルの施工は普通の施工（一重パネル）の場合とその方法、手順は同じであるがツインの場合にはそれぞれのパネル裏側の化粧目地仕上は行なわなくてよいものとする。

またパネルとパネルの間隔は 8cm 以上を標準とするものとする。

一枚目のパネルを完全に積み終ってから二枚目のパネルを積みにかかるが、この時パネルとパネルの間にモルタルを落さないように注意すること。